

第22号土壌 (第8図)

A区南端、E-4グリッドから検出された。第23号土壌を壊す。平面形態は略円形である。規模は長軸1.05m、短軸0.95m、深さ0.65mで、主軸方位はN-58°-Wを指す。覆土中より土師器小型壺、常滑産の甕胴部片(第9図9)が出土した。時期は中世と考えられる。

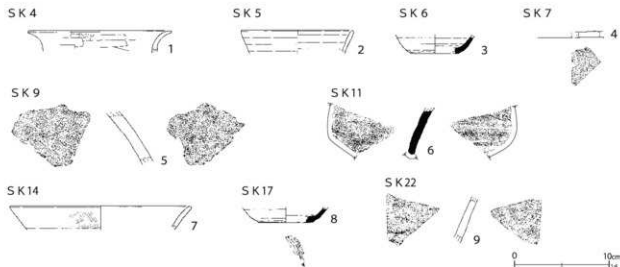
第23号土壌 (第8図)

A区南端、E-4グリッドから検出された。北側を第21号土壌に、南側を第22号土壌にそれぞれ壊されていた。平面形態は楕円形と推定される。

規模は検出範囲で長軸2.35m、短軸0.75m、深さ0.10mで、主軸方位はN-3°-Eを指す。遺物がまったく出土していないため、時期は不明である。

第24号土壌 (第8図)

A区南端、E-3グリッドから検出された。平面形態は楕円形である。規模は長軸1.40m、短軸1.10m、深さ0.55mで、主軸方位はN-12°-Eを指す。遺物がまったく出土していないため、時期は不明である。



第9図 土壌出土遺物

第1表 土壌出土遺物観察表 (第9図)

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	SK4	土師器	甕	(15.0)	[2.3]	—	H I K	10	普通	にぶい黄		3-2
2	SK5	土師器	杯	(11.8)	[2.5]	—	H I K	5	普通	にぶい黄		3-2
3	SK6	須恵器	杯	—	[2.0]	(5.0)	H I J K	15	普通	灰	南比企産	3-2
4	SK7	土師器	杯	—	[0.7]	—	H I K	40	普通	にぶい黄	底部回転系切り離し	3-2
5	SK9	陶器	甕	—	[5.6]	—	H I K	5	普通	灰	焼き締め陶器	3-2
6	SK11	須恵器	甕	—	[4.7]	—	H I J K	5	良好	灰	外面へラ記号 破断面二次加工 底石に転用 南比企産	3-2
7	SK14	土師器	甕	(19.0)	[2.5]	—	H I	5	普通	にぶい黄	口縁部外面ハケメ	3-2
8	SK17	須恵器	杯	—	[2.7]	(5.6)	H I K	20	普通	灰	底部回転系切り離し	3-2
9	SK22	常滑	甕	—	[5.0]	—	H I K	5	普通	陶灰		3-2

[凡例] 遺物観察表の表記方法は以下のとおりである。

・口径・器高・底径はcm単位である。()内の数値は推定値を示す。[]内の数値は残存高を示す。

・胎土は土器中に含まれる鉱物等のうち、特徴的なものを記号で示した。

A-雲母 B-片岩 C-角閃石 D-長石 E-石英 F-軽石 G-砂粒子 H-赤色粒子 I-白色粒子 J-白色針状物質

K-黒色粒子 L-その他

・焼成は良好・普通・不良の3段階に分けて示した。残存率は図示した器形に対する大まかな遺存程度を%で示した。備考には出土位置、注記No.、推定される土器の産地などを記した。

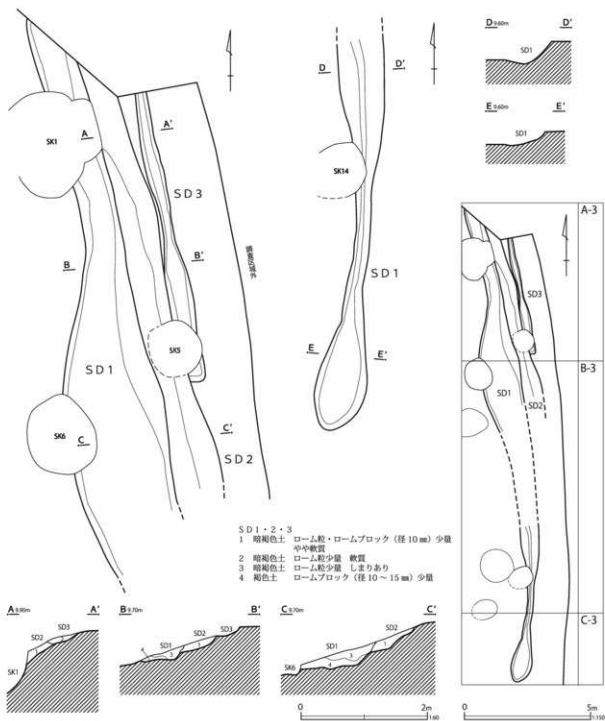
3. 溝跡

溝跡は、B区の東側に等高線に沿うように走行する3条の溝跡が検出された。

第1号溝跡（第10図）

B区の東側に位置する。A～C-2グリッドを北から南に向かって流れている。第2号溝跡、

第1・6・14号土塊と重複する。第2号溝跡を壊し、第1・6号土塊に壊されていた。溝の規模は、検出した範囲で長さ約19.00m、幅0.25～1.50m、深さ0.08～0.25mである。走行方向は北側N-13°-W、南側N-5°-Eを指す。遺物が出



第10図 第1・2・3号溝跡

土していないため、時期は不明である。

第2号溝跡（第10図）

B区の北東端に位置する。A・B-2グリッドを北から南に向かって流れている。第1・3号溝跡、第1・5号土壌と重複し、第1・3号溝跡、第1号土壌に壊されていた。溝の規模は長さ8.00m、幅0.40～0.75m、深さ0.30～0.40mである。走行方向はN-13°-Wを指す。遺物が出土して

いないため、時期は不明である。

第3号溝跡（第10図）

B区の北東端に位置する。A-2グリッドを北から南に向かって流れている。第2号溝跡、第5号土壌と重複し、両者を壊す。溝の規模は長さ4.60m、幅0.20～0.35m、深さ0.10～0.15mである。走行方向はN-11°-Wを指す。遺物が出土していないため、時期は不明である。

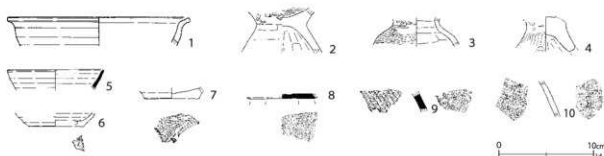
4. その他の出土遺物

第11図1は近世陶器の鉢である。素地に白土を掛け、内外面に透明釉を施す。

第11図2～4、10は古墳時代前期の土師器である。2は台付甕の接合部の破片である。外面にナデを施す。3は小型壺の頸部から肩部にかけての破片で、胴部は球形に膨らむ。外面に横方向のミガキを丁寧に施す。4は高杯の接合部で、脚部に円形の透孔を三方向にあける。器壁が厚い。10は壺の胴部片で、内外面に細かなハケメを不定方向

に施す。器壁が薄い。

第11図5～9は奈良・平安時代の須恵器・ロクロ土師器である。5は須恵器杯の口縁部片で、南比企産と推定される。6・7は酸化焰焼成のロクロ土師器の杯で、底部は回転糸切り離しである。8は底部周辺に回転ヘラケズリによる再調整を施した須恵器杯の底部で、南比企産である。時期は奈良時代に位置付けられる。9は須恵器甕の胴部片で、外面に平行叩き目、内面にナデを施す。



第11図 その他の出土遺物

第2表 その他の出土遺物観察表（第11図）

番号	遺構	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	表探	陶器	鉢	(14.4)	[2.3]	—	E H I	10	普通	灰黄	白土を掛け、内外面透明釉を施す	3-3
2	表探	土師器	台付甕	—	[4.8]	—	A H I	30	普通	にぶい赤褐	接合部片 外面ナデ	3-3
3	SK22	土師器	小型壺	—	[3.0]	—	A H I K	15	普通	にぶい橙	外面ハケメ後ヘラミガキ	3-3
4	表探	土師器	高杯	—	[3.6]	—	E H I	80	普通	にぶい黄橙	接合部片 透孔を三方向にあける	3-3
5	表探	須恵器	杯	(10.0)	[2.2]	—	I	5	普通	灰	南比企産か	3-3
6	表探	ロクロ土師器	杯	—	[1.6]	(5.8)	H I	10	普通	浅黄橙	底部回転糸切り離し	3-3
7	表探	ロクロ土師器	杯	—	[1.2]	(5.6)	H I K	40	普通	にぶい黄橙	底部回転糸切り離し	3-3
8	表探	須恵器	杯	—	[0.6]	(6.8)	H I J K	10	普通	灰	底部周辺ヘラケズリ 南比企産	3-3
9	表探	須恵器	甕	—	[2.2]	—	E H I K	5	普通	灰	外面平行叩き目 内面ナデ	3-3
10	表探	土師器	壺	—	[3.8]	—	H I	5	普通	にぶい黄橙	内外面ハケメ 器壁薄い	3-3

V 調査のまとめ

平成10年度に実施した下野田稲荷原遺跡の調査から、既に十数年の歳月が過ぎた。この間、さいたま市遺跡調査会が中心となり、土地区画整理事業に伴う十数次にわたる発掘調査が継続的に行われ、多くの調査成果が蓄積されてきた。これまでの調査により、縄文時代前期、弥生時代後期から古墳時代前期、奈良・平安時代の住居跡などが検出されて、特に弥生時代後期から古墳時代前期と平安時代の集落は、住居跡軒数も多く、大きな成果を挙げている。

今回の調査地点は、北側から大きく湾入する湖れ谷に面した台地西縁部の斜面地に立地し、遺跡範囲の西端部に位置する。数多くの地点で調査が行われてきた台地東縁部とは対照的に、遺跡としては未だ調査の及んでいない部分に当たる。

調査では小道を隔て、上下二段に造成された狭小な斜面地（A・B区）を中心に、24基の土壇と3条の溝跡が検出された。遺物は縄文土器、土師器、須恵器、陶器等が出土しているものの、確実に遺構に伴うと判断できるものは少なかった。

土壇はA区7基、B区17基の計24基を検出した。平面形態は円形、楕円形、不整形など、さまざまである。僅少な遺物からの時期比定であるため、不確実性は否めないが、各土壇の時期は、古墳時代前期が4基（第4・12・14・20号土壇）、平安時代が6基（第5～7・11・16・17号土壇）、中世が3基（第9・21・22号土壇）、時期不明が11基（第1～3・8・10・13・15・18・19・23・24号土壇）である。台地平坦地における遺構の分布状況を勘案すれば、時期不明のものを含め、平安時代以降のものが主体になると考えられる。

溝跡は、やや傾斜の強い斜面地に等高線に沿って直線的に開削されていた。土層の観察から数回

にわたって掘り直されていることが判明した。遺物がまったく出土していないため時期を特定することはできないが、土壇との重複関係から見ると平安時代に遡る可能性が高い。性格としては、区画溝や根切り溝が想定される。

このように今回の調査地点は、居住に不適な斜面地であるため、土壇や溝などが検出されただけで、遺構の分布は全体に希薄であった。しかし、今までほとんど調査されていなかった、遺跡範囲西側における土地利用の一端を明らかにできたことは、集落全体の土地利用のあり方を復元する上で有効な情報を提供したといえる。

他にもB区のテストピットではローム層下、標高8m付近に黄灰色の粘土層が厚く堆積していることが確認された点も重要である。

これまでの研究によって、さいたま市南東部の下野田・中野田地域から芝川流域を中心に分布する平安時代集落の多くでは、9世紀後半以降になるとロクロ土師器が供膳具の主体を占めることが、特徴的な土器様相として指摘されていた（昼間2006）。とりわけ、ロクロ土師器が定量で出土している下野田稲荷原遺跡周辺が、生産地の有力な候補地のひとつに挙げられており、それを裏付けるように第3次調査では土師器焼成坑（第47号土壇）が検出されている（山田2000）。

しかし、現状では土器生産に必要な不可欠な粘土、水、薪などをどのように入手し、どのような生産組織であったのか、さらには周辺地域への流通状況など、ほとんど未解明の状態である。果たして、今回確認された粘土層が、土器生産に利用されたものであるかどうかは現状では不明だが、今後の調査の進展により、近隣に粘土採掘坑や工房跡などが発見されることを期待したい。

引用・参考文献

- 田中広明 2003『古代集落の再編と終焉』『中世東国の世界1 北関東』高志書院
昼間孝志 2006『ロクロ土師器の流通—ロクロ土師器からみた武蔵国東部の古代社会—』『古代武蔵国の須恵器流通と地域社会』埼玉考古別冊9 埼玉考古学会
渡辺 一 1996『大宮台地東部における平安時代の二三の問題』下津弘君・塚越哲也君追悼論文集『葛城地域文化の研究』

写真図版



1 A区全景（北から）



5 第2号土坑



2 B区全景（北から）



6 第9号土坑



3 基本土層（B区TP2）



7 第10号土坑



4 第1号土坑



8 第11号土坑

图版 2



1 第 16 号土坑



5 第 20 号土坑



2 第 17 号土坑



6 第 21·22·23 号土坑



3 第 18～23 号土坑



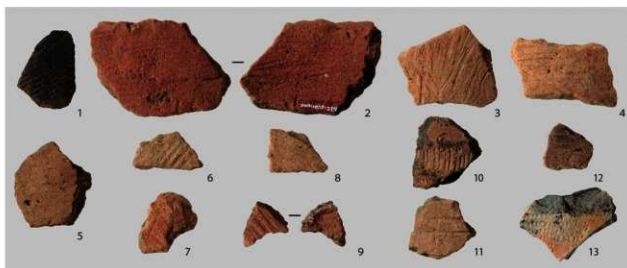
7 第 24 号土坑



4 第 18 号土坑



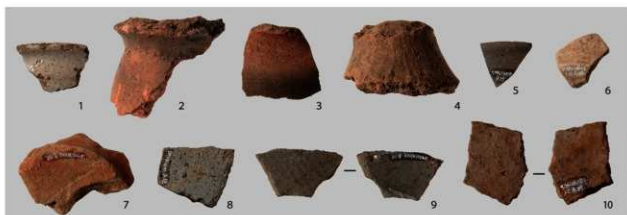
8 第 1·2·3 号满坑



1 縄文土器 (第6図1～13)



2 土壌出土遺物 (第9図1～9)



3 その他の出土遺物 (第11図1～10)

報告書抄録

ふりがな	しものだいにたりはらせき						
書名	下野田稲荷原遺跡Ⅱ						
副書名	一般国道463号浦和インターチェンジ連結部建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告						
シリーズ名	埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書						
シリーズ番号	第398集						
編著者名	大谷 徹						
編集機関	公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団						
所在地	〒369-0108 埼玉県熊谷市船木台4丁目4番地1 TEL0493-39-3955						
発行年月日	西暦2013(平成25)年1月25日						
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
しものだいにたりはら せき 下野田稲荷原 遺跡	さいたまけん 埼玉県さいたま市 みどり区おおむさしもの 緑区大字下野田 あざいなりはら ほか 下野田稲荷原215地	11100 01-076	35°53'26"	139°43'31"	19981001 ～ 19981130	1,310	道路建設
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項	
下野田稲荷原 遺跡	集落跡	縄文・古墳・平安・ 中世	土壇 溝跡	24基 3条	縄文土器・土師器・ 須恵器・陶器		
要 約							
下野田稲荷原遺跡は、さいたま市緑区大字下野田に所在し、大宮台地鳴ヶ谷文台の東縁部に位置する。これまでに道路建設や土地区画整理により発掘調査が継続的に実施され、弥生時代後期から古墳時代前期と平安時代を中心とした集落跡であることが明らかにされている。 今回の調査地点は、綾瀬川から入り込んだ溺れ谷に面する標高8～12mの斜面地に立地する。検出された遺構は土壇24基、溝跡3条である。土壇は円形や楕円形のものが多い。出土遺物から古墳時代前期、平安時代、中世の所産と考えられる。溝跡は出土遺物がなく時期不明であるが、土壇との重複関係から平安時代に遡る可能性が考えられる。出土遺物は、縄文土器、土師器、須恵器、陶器などがある。縄文土器は、早期の押型文系土器、条痕文系土器、中期の勝坂式土器などが見られ、この地域で人々が長い間生活していたことを窺わせる。古墳時代前期の遺物は、土師器壺、小型壺、高杯、甕、台付甕などが出土した。平安時代の遺物は、須恵器環、甕、ロクロ土師器環がある。このうちロクロ土師器は、近隣で生産されたものと考えられる。中世の遺物は、常滑産の甕が出土した。 今回の調査地点は、居住にはあまり適していない斜面地に立地しているため、遺構の分布は全体に希薄であった。しかし、集落の全体像を復元する上では、台地上の平坦地に広がる居住域周辺の土地利用のあり方も重要な情報を提供している。							

埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第398集

下野田稻荷原遺跡Ⅱ

一般国道463号浦和インターチェンジ連結部建設事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告

平成25年1月21日 印刷

平成25年1月25日 発行

発行／公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

〒369-0108 熊谷市船木台4丁目4番地1

電話 0493(39)3955

<http://www.saimaibun.or.jp>

印刷／朝日印刷工業株式会社